

平成 13 年度 社団法人音楽電子事業協会 事業報告

(平成 13 年 4 月 1 日から平成 14 年 3 月 31 日まで)

(1) 理事会の開催

1. 平成 13 年 5 月 15 日 (平成 13 年度第 1 回理事会)

- ・ 社団法人音楽電子事業協会「第 5 回通常総会議案書」の承認
- ・ 平成 12 年度 収支決算及び監査報告の審議、承認
- ・ 平成 13 年度 収支予算案、及び特別会計設置案の審議、承認
- ・ 社団法人音楽電子事業協会の平成 13 年度新任理事 (4 名) の承認
- ・ 平成 13 年度の諮問委員会、専門委員会の委員長、副委員長案の承認

2. 平成 14 年 3 月 26 日 (平成 13 年度第 2 回理事会)

- ・ 平成 13 年度収支決算見込案及び平成 13 年度事業報告案の審議
- ・ 平成 14 年度事業計画案及び事業予算案の審議
- ・ 平成 14 年度役員改選に伴う理事案の審議
- ・ 平成 14 年度会費規則一部変更案の審議
- ・ 第 6 回通常総会開催および付議事項の承認

3. 書面審議

- ・ 7 月 05 日 ノキア・ジャパン株式会社の入会が審議・承認された。
- ・ 7 月 16 日 京セラ株式会社の入会が審議・承認された。
- ・ 9 月 28 日 NTT コミュニケーションズ株式会社の入会が審議・承認された。
- ・ 1 月 25 日 株式会社フュートレックの入会が審議・承認された。
- ・ 2 月 18 日 株式会社サクセスの入会が審議・承認された。

(2) 運営委員会の開催

1. 平成 13 年度第 1 回運営委員会 (平成 13 年 9 月 20 日)

- ・ 8 月末日現在の収支実績報告
- ・ 会費規則一部変更案の検討 (分類別会費の対象品目及び事業規模基準について)
- ・ 専門委員会報告 (13 年度前半活動結果と後半の予定について)

1394 プロジェクト: プロジェクトで進めてきた Music Subunit を 1394TA (国際会議) に提案した。9 月に承認の予定。

透かしプロジェクト: MIDI 透かしの運用を会員に提案できるようになった。MIDI Sign と ISMC の仕組みを 10 月に打ち出す。

MIDI 規格委員会: モバイル MIDI 部会の活動により GML が 5 月に制定され、記者発表をした。NTT ドコモ、KDDI 等に活用を積極的に働きかける様にと提案があり、NTT ドコモ、KDDI 社長宛手紙を書く事とした。

著作権委員会: 著作権等管理事業法施行に伴う JASRAC から使用料規程の一部変更案が提起されている。カラオケ・インターネット両部会で検討協議中である。

事業委員会: 10 月の楽器フェアで、AMEI はアップル社と協力し、8 小間を取りコンピュータミュージックのデモを展開する。

MIDI 検定 3 級、及び 2 級筆記試験を 12 月 16 日に実施する。

ハードウェア委員会の活動状況の報告

2. 平成 13 年度第 2 回運営委員会 (平成 13 年 2 月 20 日)

- ・ 平成 13 年度収支決算見込み報告審議
- ・ 平成 14 年度 AMEI 会費規則一部変更案の検討、承認
- ・ 平成 13 年度 AMEI 委員会別事業報告案の審議、承認
- ・ 平成 14 年度 AMEI 委員会別事業計画の審議、承認
- ・ 平成 14 年度 AMEI 収支予算案の検討、審議
- ・ その他

平成 13 年度 社団法人音楽電子事業協会事業報告（専門委員会）

（平成 13 年 4 月 1 日から平成 14 年 3 月 31 日まで）

(1) ハードウェア委員会

1. 全体会議（環境問題、安全規格の両部会合同 12/12）

- ・ 来年度の事業計画に対する意見交換
- ・ 外部団体への参加メリット等の意見交換

2. 正副委員長・部会長会議（2/14）

- ・ 当期事業報告案、次期事業計画の見直しと承認
- ・ クリーンジャパンセンターからの情報入手の価値が低いことから次年度より脱会する事を決議した。

3. 安全規格部会

年 6 回の部会を開催

- ・ 安全規格
 - IEC-J を取り入れた音楽電子機器の安全性の電取自主依頼試験を 3 件行った。
 - 安全規格関連の規格調査と変動状況把握及び会員への情報提供
電気用品安全法の施行規則、技術基準、運用と解説、Q&A
UL6500 EN60065 の改定動向、中国の規制動向、韓国電気用品安全管理法、オーストラリア、シンガポール、ブラジルなどの動向
 - 各国工場検査要求事項一覧表の提供
 - 「FCC におけるクラス B 自己宣言又は自己立証のいずれかに該当するかの判断基準のガイドライン」を策定し、会員に発行した。
 - 外部委員会及び外部団体の協議会へ出席し、意見を提出した。
（第 92 委員会、家製協 PL センター連絡会、電気用品調査委員会、電子情報技術産業協会（JEITA）、CISPR13 国内答申 WG 外部委員会）
- ・ EMC
 - J55013 の規格化に関し、電波雑音専門部会に参画
 - EMC（電波障害）関連の状況調査と情報提供
家電汎用品高調波抑制ガイドラインの改正についての把握と内容提示
測定の不確かさについて、最新オフィシャルジャーナルの提供
- ・ PL
 - PL 関連情報の情報収集と提供
 - 家電製品 PL センター年次報告書、平成 11 年度事故情報報告書
- ・ その他
 - 電気安全法が 2001 年 4 月より施行された。

4. 環境問題研究部会

- ・ 年5回の部会を開催、国内外の環境に関する法・規制の勉強と情報交換
- ・ 容器包装関連リサイクル法、家電リサイクル法、資源有効利用促進法、地球温暖化問題関連、PRTR（特定化学物質）法、定量的環境情報ラベル、JEMAI プログラム（以上日本）
- ・ EC 廃電子電気機器指令案、EC 電気電子機器の環境影響指令案（以上欧州）
- ・ 勉強会の実施（9/12）

PRTR 法について

- PRTR 法の発効に伴い、法律の内容を理解すると共に、会員各社における迅速な対応の必要性（講師：ヤマハ(株)環境管理部 大隈清美技師）
- 15名が参加し、大変有意義との評価であった。

(2) MIDI 規格委員会

1. 幹事会を7回開催（隔月）

- ・ MIDI に関わる主要課題の検討審議
- ・ モバイルMIDI WG を部会に昇格

2. モバイルMIDI（GM Lite）を作成・提案

- ・ MIDI の他業種への採用を目的に、携帯電話、ゲーム機器等への積極的な普及を狙い、モバイルMIDI を提案
- ・ 15回のWG開催を通じて、原案を完成し、初の世界標準化として5月30日にプレスリリースと事業者向け説明会を開催した。プレス26社39名、事業者約130名の参加があった。
- ・ 世界標準化に向けMMA と協議を行い、GM Lite（RP-033）として相互承認した。

3. MMA との連携強化

- ・ NAMM ビジネスツアーの実施は（多発テロ予防対策のため）中止した。
- ・ MMA とのコミュニケーションの為、日本（AMEI）において MMA とのミーティングを11月19日開催した。
- ・ SP-MIDI（MMA 提案のモバイルMIDI 規格）等について GMX WG で検討、3GPP（3rd Generation Partnership Project）に推奨案をまとめ提案し承認された。
- ・ 透かし「MIDI Sign」及び「ISMC」のMMA 採用に情報交換。

(3) 著作権・ソフト委員会

1. 定例会の開催

- ・ 定例会を 10 回開催した。また定例会に合わせて、内外講師による最新のデジタル技術及び話題のデジタル新規事業を紹介するセミナー勉強会を 9 回開催し多くの会員が受講した。

著作権・ソフト 定例会

定例会 開催日	セミナー タイトル	セミナー 講師名 会社名	セミナー 担当部会
4月12日	なし		
5月10日	ブロードバンドコンテンツ配信サービス「ヒットポップス」	樋口健 営業本部長 (株)ヒットポップス	ソフト
6月14日	著作権等管理事業法に伴う JASRAC の実務対応	野方英樹 JASRAC 送信部課長	インターネット
7月12日	ブラザー工業開発の NET 情報 シールメーカー(スポットスナップ)の デモ	井上昭成 営業企画部 PM ブラザー工業(株)	カラオケ
9月13日	AMEI 標準透かしの内容説明と試聴	戸叶司武郎 ヤマハ(株) 内藤 丈嗣 日本ビクター(株)	プロテクト
10月11日	BREW の概要とキャリアの BREW サービス動向	井出基樹 プラットフォーム技術部長 クアルコムジャパン(株)	モバイル
11月8日	CD/DVD レーベルのオンデマンド・パブリッシング	三宅義治 代表取締役社長 (有)デジタル・ストリームス	パッケージ
12月13日	ネットワーク時代の音楽制作・表現と配信	長谷川豊 メディア総合戦略室 企画グループマネージャー ヤマハ(株)	ソフト
1月24日	著作権等事業法のもと4月1日からの新管理事業者 JRC の事業説明	荒川祐二 代表取締役社長 ジャパン・ライツ・クリアランス	インターネット
3月14日	「音楽許諾管理システム=Melodies」と「マルチコンテンツデジタル配信対応の権利=Memories」の構想紹介	中西 康浩 (株)メロディース&メモリーズグローバル取締役	プロテクト

(敬称略)

2. 著作権等管理事業法の説明会

- ・ 平成 13 年 6 月 11 日午後 2 時より 2 時間余にわたり 文化庁長官官房著作権課の川瀬真課長補佐を招き、航空会館にて、平成 13 年 10 月 1 日、施行される著作権等管理事業法に関する省令説明会を開催した。参加者はカラオケ部会会員を中心に 55 名であった。
- ・ 著作権等管理事業法の概要と省令

- ・ 仲介事業法と著作権等管理事業法の規制対象範囲に関する違い
- ・ 著作権等管理事業法に関する実務（登録、管理委託契約約款の作成・届出、使用料規程の作成と届出、使用料規程に関する是正措置、指定管理事業者に対し利用者代表が協議を求める場合等）

3. ソフト部会

- ・ GM2 ワーキング
 - GMレベル2の普及発展、市場拡大のためのデータ書式の標準化（5回のWG）
データ制作ガイドブック作成、データ制作者の為のツール開発提供
- ・ GM2 セミナーの実施
 - 「楽器フェア2001」開催時の10月19日、池袋サンシャインシティにて「概要と活用方法についてデモを交えて：講師 青山忠英氏」で実施した。

4. インターネット部会&モバイル部会

- ・ 「インタラクティブ配信による音楽著作物利用事業の公正な使用料確立」にNMRC活動を通じ、特にJASRACの使用料改定（4月1日）案の検討協議。
第12節のストリーム形式について、現時点AMEI側主張が充分入れられていないので至急JASRACに改訂申し入れするようNMRCを通じ行なった。
（JASRAC側の案はストリーム形式をオンデマンドとウェブキャストに区分し使用料課金をする案であったが今回は撤回、しかし「1曲使用の場合4.5円又は4.5%のいずれか多い額を使用料とする」「歌詞、楽譜等可視的な利用の場合の使用料」の2点について、異議がある。）
- ・ 携帯電話をベースとした音楽著作権使用料の適正化。
- ・ 著作物の保護という視点から考察したMIDIセキュリティに対する変え方の啓蒙。

5. カラオケ部会

- ・ 著作権等管理事業法改訂に伴う「JASRACの利用料規程」の検討協議。
- ・ 新管理事業者のEライセンス、JRC（2社）とも業務用通信カラオケには現段階では参入しない旨を表明、当面JASRAC1社が音楽著作権管理事業者となる。
- ・ 但し、今後個人管理への対応等の問題が残る。

6. パッケージ部会

- ・ 「インタラクティブ性のあるパッケージソフト著作権料率について」JASRAC映像部長に、規程案未定であっても事業の許諾を出して欲しい旨の申入れ書を提出した。（平成13年4月6日）
- ・ シンク口権について他部会と意見交換をする。

(4) 事業委員会

- ・ 「2001 楽器フェア (10月18日~21日) に AMEI ブースを出展」
 - アップル社の協力のもと、「Macintosh Music & Audio Solution Pavilion」として、Mac の最新ソリューションを一堂に集め、展示とデモンストレーションを行なった。
 - 楽器フェア：池袋サンシャインシティ 入場者 105,749 名
 - AMEI ブースへの参加社 8 社：
アイデックス音楽総研(株)、(株)インターネット、(株)エムオーデジオ、
デジデザイン・ジャパン、(株)フックアップ、(株)メディア・インテグレーション、
ヤマハ(株)、ローランド(株)
 - MIDI 検定セミナー(入門講座、3 級受験講座、2 級講座、2 級実技受験講座、4 級講師
養成口座)を連日開催、約 250 名の受講者であった。

(5) マルチメディア推進委員会

- ・ 今後のマルチメディア推進委員会の活動方向について幹事会にて検討(5 回の幹事会を開催)

(6) デジタルレコーディング委員会

- ・ デジタルレコーディングに関わるメーカー間の技術的連携を取り、委員会で検討された事項(問題点の認識と改善)でユーザーにとって必要な情報をホームページ上に反映させた。(10 回の委員会)
 - 「タイムコードのセットアップ」を掲載
 - タイムコードについてティアック(株)野島氏を講師として勉強会、その内容を上記掲載
- ・ デジタルレコーディングに関する勉強会を、メンバーのレベルアップのため実施。
 - デジタルオーディオ接続時のワードクロック端子検証
JSPA と共同開催：各社のワードクロック仕様の調査、各社機器持込接続 接続検証
異なるメーカー間のデジタル接続に問題ない事が確認された。

(7) MIDI 認定制度研究委員会

- ・ 第 4 回 3 級検定試験・第 3 回 2 級筆記試験を実施
 - 平成 13 年 12 月 16 日、全国北は旭川から南は熊本まで 82 会場(内、島村楽器会場 43 会場、昨年は合計 80 会場)にて実施した。
3 級 2009 名、2 級 586 名の合計 2,595 名応募があった。(昨年度 2,738 名 昨年度比 95%)
3 級合格者 1,411 名(合格率 70.2%)、2 級筆記合格者 290 名(合格率 49.5%)
- ・ 第 3 回 MIDI 検定 2 級実技試験を実施。
 - 平成 13 年 2 月 9 日~2 月 11 日まで東京(お茶の水スクエア)、大阪(マイドームおおさか)にて実施した。応募者 404 名、合格者 21 名(合格率 5.2%)

- MIDI 検定受験者の推移

実施日	平成 10 年度	平成 11 年度	平成 12 年度	平成 13 年度	合計
3 級受験者総数 (合格者)	2,966 (2,413)	2,737 (1,542)	2,145 (1,536)	2,009 (1,411)	9,857 (6,903)
内専門学校生受験者数	1,275 (22 校)	1,591 (32 校)	866 (34 校)	1,040 (39 校)	4,772
2 級筆記受験者総数 (合格者)		979 (350)	593 (240)	586 (290)	2,158 (880)
2 級実技受験者総数 (合格者)		378 (127)	295 (64)	404 (21)	1,077 (212)

・ MIDI 検定受験セミナーの実施

- 10 月 19 日から 10 月 21 日の楽器フェア開催期間中、池袋サンシャインシティにて、連日開催し、250 名の受講者があった。

- セミナー内容：

MIDI 検定説明会

講師： 大浜和史 (MIDI 認定制度副委員長、JSPA 理事長)

上杉尚史 (MIDI 検定委員、JSPA 理事)

内容： 教育関係者及び一般への「MIDI 認定制度の概要説明、検定試験の目的と実施結果」

MIDI 検定試験 3 級受験講座

講師： 国友孝純 (MIDI 検定委員、JSPA 副理事長)

内容： MIDI3 級受験者対象、MIDI 検定 3 級筆記試験問題の要点と解説

MIDI 検定 4 級講師養成講座

講師： 氏家克典 (MIDI 認定制度副委員長、JSPA 副理事長)

沢 影記 (JSPA 理事)

内容： MIDI 検定 2 級合格者対象、MIDI 検定 4 級指導者研修 - 指導講師資格と 4 級指導要綱

MIDI 検定入門講座

講師： 沢 影記 (JSPA 理事、ミュージックメディア入門執筆編集者)

熱海謙治 (同上)

内容： MIDI 検定入門者対象 (MIDI 検定入門、コンピュータと音楽ファイル活用法)

MIDI 検定試験 2 級実技受験講座

講師： 上杉尚史 (MIDI 検定委員、JSPA 理事)

辻 伸夫 (MIDI 検定委員、JSPA 副理事)

内容： MIDI2 級受験者第 2 回(平成 13 年 3 月)実技試験の概要と第 3 回実技試験の傾向と対策の要点と解説

GM レベル 2 講座

講師： 青山忠英 (JSPA 会員)

内容： 標準音源規格として期待される General MIDI 2 の概要と活用法についてデモを交えて解説

- ・ MIDI 検定 4 級のスタート
 - 平成 13 年 5 月 31 日にガイドブック（ミュージックメディア入門）を発売
 - 下記、専門学校 8 校にて実施、約 250 名の受験

アイデックスミュージックアカデミー	島村楽器（株）
茨城音楽学園	デジタルアーツ仙台
コンピュータミュージッククラブ Dee	日本工学院八王子専門学校
札幌科学技術学園	日本電子専門学校

- ・ 「CLUB MID」会報誌の発行
 - 過去 4 回の 3 級合格者（約 7,000 名）を対象に「CLUB MID」会報誌を発行配布

(8) 1394 プロジェクト

- ・ 7 回の全体会議にて検討
 - AMSWG（Audio Music Silicon Working Group）
AM プロトコルに適したチップ仕様の検討、市場調査をし、ヤマハより仕様提案があり、WG は昨年終了
 - MPWG（Music Protocol Working Group）
1394 利用の伝送仕様は昨年策定完了
 - CMWG（Connection Management Working Group）の活動を主に実施
目標：機器間の標準的な自動接続方法の確立
活動：業界の将来的な利用上の便宜性を最大限考慮した上、国際標準化検討団体（1394 Trade Association や IEC など）の動きとも整合し、かつタイムリーな提案ができるように、AMEI 独自に Music Subuit の作成検討を実施した。
結果：Music Subuit は、1 月の 1394TA ボードメンバーによる最終投票で可決された。

(9) 透かし推進プロジェクト

- ・ 合計 11 回のプロジェクトミーティングを開催
- ・ 助成金応募活動
- ・ 第 1 次タスクフォース
 - IPA 情報開発支援事業への応募
6 月 8 日タスクフォース立ちあげ、6 月 21 日申請書提出
7 月 24 日不採用通知（事業先進性と波及効果が小さいとの判断）
 - 機械システム振興協会の調査委託事業への応募
8 月 13 日経済産業省に応募書類提出、8 月 24 日不採用通知、（開発新規性が乏しい）
- ・ 第 2 次タスクフォース
 - 機械システム振興協会の調査委託事業への再応募
10 月 25 日応募書類を提出、10 月 30 日 不採用通知
- ・ AMEI 標準 MIDI 電子透かしの運営スタート
 - 「ISMC 規格」及び「MIDI sign」のライセンスを 12 月 1 日会員に対し打ち出した。
 - ISMC 規格決定、透かし埋め込みツールの決定
 - デコードサーバーの構築
 - MIDI sign の商標決定
 - ISMC 規格の管理実費の決定
 - 透かし運用説明会を 11 月 20 日に実施
同時にニュースリリース（日経産業新聞他）を実施
 - 現在数社が既に採用、10 社以上が検討中
 - MMA（アメリカ）にも採用を呼びかけ協議中。

(10) 広報委員会

- ・ 会報を平成 13 年 4 月 6 日、7 月 16 日、12 月 5 日 計 3 回発行した。
- ・ 平成 13 年度版「社団法人音楽電子事業協会入会案内」を作成した。

(11) 海外視察団の中止

- ・ 毎年 MIDI 規格委員会主催にて米国 NAMM 視察団の実施をしていたが、本年度は 9 月の米国での同時多発テロの影響のため、各会員企業も米国出張を規制する動きもあり一時的に中止した。
- ・ MMA との交流は別途独自に計画、実施した（13 年 11 月 MMA 側が来日）